

「御国が来ますように」
マタイによる福音書 6 章 10 節

私たちが主の祈りにおいて祈っている「御国を来たらせたまえ」の「御国」とは、神さまの国のことです。神さまの国が来れば、苦しんでいる人々が救われる、平安が与えられる、今の現実を神さまが変えてくださり、苦しみ悲しみを取り除いてくださり、喜びと平安の世界にしてください、そのことを願い求める祈りとして受け止めていることが多いのではないのでしょうか。

イエスさまは、宣教活動を始められた時、最初にこう言われました。「悔い改めよ。天の国は近づいた」と。イエスさまの救いの御業によって、神の国は私たちのすぐ近くまで、いやもう既に始まっているのです。しかし、もし、イエスさまによって神の国がもたらされていて、私たちが既にその中に入れられているとするならば、なぜこんな苦しみが、あんな悲惨なことが起こるのか、という疑問が湧いてきます。つまり、私たちが今生きているこの現実、この生活の中に神の国があるとは感じられないのです。つまりイエスさまがもたらしてくださった神の国と私たちが考える神の国との間には、ギャップがあるのです。

では、なぜ、そのギャップは生まれるのでしょうか。「神の国」という言葉の本来の意味は、「神の支配」という意味です。イエスさまは、人々の病を癒し、弟子たちや人々に、神の国の御言葉を語られました。徴税人や罪人たちと、喜んで一緒に食事をされました。これは、神の国が来たことの「しるし」でした。そして、イエスさまは、私たちの罪を贖うために十字架にかかってくださいました。そして、死の闇を打ち砕くために復活されました。罪人の私たちが神の国で生きることが出来る道を、開いてくださったのです。

このように、イエスさまが来てくださったことによって神の国が始まりました。神さまのご支配、愛のご支配が、既にこの世に始まったのです。しかし、それは未だ完成してはいません。この世は未だ、罪の支配下にあるからです。

だから、イエスさまはこう祈ることを教えてくださったのです。「御心が行われますように、天におけるように地の上にも」と。イエスさまは「御心」と言われました。これは直訳すれば「あなたの意志」となります。つまり、神さまのご意志です。この神さまの御心というのは、初めの人間が罪を犯したその時から既に救いに与らせるという、とてつもなく長く、広く、深い、そして憐れみに満ちたものです。

その神さまのご支配のためにイエスさまは、神の御心に生きられました。そのことは、ゲッセマネの園で祈られたイエスさまの祈りの言葉に表されています。イエスさまは、「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」(マタイ 26:39) と祈られました。十字架にかけられる前の晩のことでした。このイエスさまの祈りの中に御心とはどういうものなのかが、また御心を求めるとはどういうことなのかが示されています。

イエスさまが十字架にお架かりになること、それが神さまのご意志、御心でした。しかし、イエスさまを十字架にかけるといふ神さまの御心は、それ自体が目的ではありませんでした。そのことによって罪人である私たちの一切の罪を赦し、私たちを神さまの子として新しい命に生きるようにするためでした。神さまの御心はこんなにも憐れみに満ちているのです。私たちは神さまに愛されている。そして、イエスさまの十字架により、私たちはそのことを知らされたが故に、この祈りを祈ることが出来るのです。

しかし、それでも私たちは思い違いをしてしまうのです。自分の都合の良いことが起きれば「御心」だ、都合が悪ければ「御心」ではないと。しかし、イエスさまは十字架にお架かりになる直前に「わたしの願いどおりではなく、御心のままに」と祈られました。私たちも、この祈りを祈り続けていく中で、聖霊の導きの中で、私たちは少しずつ変えられていく、そのことを信じる者でありたいと思います。